

(1) 大学・学科の設置理念

①大学

兵庫県立大学の設置理念は、神戸商科大学、姫路工業大学、兵庫県立看護大学の「統合による相乗効果と総合大学のもつ利点・特徴を最大限に生かし、異分野間の融合を重視した教育と研究を行い、独創的・先駆的な研究を推進して『新しい知の創造』に全力を尽くすとともに、新しい時代の進展に対応し得る確固たる専門能力と幅広い教養とを備えた人間性豊かな人材の育成に努め、地域の発展と我が国の繁栄、ひいては世界・人類の幸せに貢献し得る大学となることを目指す」である。

この設置理念に基づき、基本的な使命に「教育」「研究」「社会貢献」を柱に据え、「地域社会や国際社会で活躍する人間性豊かな人材を育成」「時代を切り拓く革新的な研究を世界に発信」「兵庫をフィールドに社会の発展や課題解決に貢献」をそれぞれのビジョンとして掲げ、社会から信頼され評価される、世界水準の大学を目指している。

大学のディプロマ・ポリシーは下記の通りである。

○DP1：知識

1. 学士としての専門知識を有している
2. 学際的思考の基礎となる幅広い知識を有している

○DP2：人間性

1. 人間と社会について深く考察し、社会的包摂の理念の下、公共の精神と倫理観をもって行動できる
2. 自己実現に向けて自主性・自律性をもって活動できる

○DP3：国際性・地域制

1. グローバル社会に対応できる語学力と異文化理解に資するコミュニケーション力を有している
2. 地域の諸課題を世界との関連性の中で認識・理解できる

○DP4：創造的な課題解決力

1. 社会の諸課題の解決を志向し、創造的思考を用いて取り組むことができる
2. データサイエンスのリテラシーを有し、それを適切かつ効果的に活用できる

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

工学部の設置理念は、「ものづくり」に主眼を置いた教育・研究を通して、真に人類の利益と安全に貢献できる有能な人材の育成を図るとともに、先導的、創造的研究に基づく工学知の発信基地として我が国と兵庫県の文化の向上と産業の発展に寄与することである。そのために、高い倫理観の涵養と異文化理解の深化、グローバルコミュニケーション能力の向上を目指した教育に加えて、徹底した工学専門基礎教育の上に高度な専門教育と研究指導を行い、国際的に通用する資質と能力を兼ね備えた専門技術者・研究者を育成する。

本学部のディプロマ・ポリシーは下記の通りである。

○DP1：工学の基礎となる数学や化学、物理学などを修得している

○DP2：専攻分野に関する知識と技術、数理・データサイエンス技術を専攻分野に応用できるスキルを修得している

○DP3：最新の知識や技術について、自ら学び続けることができる能力を身につけている

○DP4：専攻分野を中心とする工学分野において、修得した知識や技術、能力を地域とグローバル課題発見・解決に応用し、倫理観と誇りを持って社会に貢献できる

○DP5：多様な文化・他者を理解・尊重し、建設的なコミュニケーションと議論ができる
さらに、工学部の教育課程は工学科の下に5コース（電気電子工学、知能情報、機械工学、材料デザイン、化学）の専門分野を配置している。各コースのディプロマ・ポリシーは下記の通りである。

○電気電子工学コース

- ・DP1：電気電子工学の専門基礎力と工学全般の幅広い見識を身につけている
- ・DP2：電気電子工学の高度な専門知識と技術を身につけている
- ・DP3：身につけた専門知識と技術をより実践的なものとして理解し、電気電子工学分野の先端技術に関する知識を自ら継続的に得る能力を身につけている

○知能情報コース

- ・DP1：情報科学と、その基礎となる数学の基礎力を身に付けている
- ・DP2：計算機プログラミングと、それに基づく知能情報システムの実装が可能な知識と技術を習得している
- ・DP3：常に高度化する技術について、自ら継続的に知識を得る能力を身につけている

○機械工学コース

- ・DP1：工学全般の幅広い見識および基礎学力を身に付けている
- ・DP2：機械工学の基礎知識とこれに基づいた高度な機械専門知識を身に付けている
- ・DP3：専門知識を用いて自ら考え、ものづくりができる能力を身に付けている

○材料デザインコース

- ・DP1：物理、化学、数学の基礎知識と高度な材料の専門知識を身に付けている
- ・DP2：金属、機械、電気、化学に関連した材料開発と材料解析ができる
- ・DP3：材料学の視点から社会の諸問題を解決するデザイン力を有する

○化学コース

- ・DP1：化学の基礎的知識と技能を習得している
- ・DP2：化学をはじめとする工学の多様な知識・技術に精通し、社会の課題解決のために、化学を基盤とした事象を多面的に洞察できる
- ・DP3：デジタル、情報技術を活用したこれからの化学的モノづくりに対応できる

学生は上記の5コースのいずれかに所属し、コースの専門分野を中心に柔軟かつ幅広い学びが可能な分野横断型のカリキュラムにて学修することで、グローバルな課題解決の重要性を認識し、また社会の変革をリードできる工学系技術者・研究者としての素養を養う。これらの能力を身につけた学生に学位（学士（工学））を授与する。

（2）教員養成の目標・計画

①大学

兵庫県立大学は、上記(1)①の通り、「新しい時代の進展に対応しうる確固たる専門能力と幅広い教養とを備えた人間性豊かな人材の育成」を設置理念とし、「教育」「研究」「社会貢献」を基本的使命としている。これらの大学の使命を果たすべく、「確固たる専門能力」と「幅広い教養」を兼ね備え、教育実践力の基礎を身につけた人間性豊かな教員の養成を図っている。

上記の教員養成理念を実現するために、以下の3つの力の修得を学修目標としている。

- ・磨き続ける力：公共の精神と倫理観をもって、教職者としての自己を磨き続ける力
- ・教え、寄り添う力：教科や教職に関する専門知識に基づき、教え、寄り添う力
- ・協働する力：幅広い教養を備え、他者の価値観を尊重しつつ、協調、協働する力

教職課程は、これらの学修目標を達成するために、教育の基礎的理解に関する科目等や各学部・研究科の専門分野に基づく科目を<教職への意欲醸成><教科・教職の専門的知識獲得><教育実践力養成>が図れるよう順序・系統立て編成し、実施している（図1）。

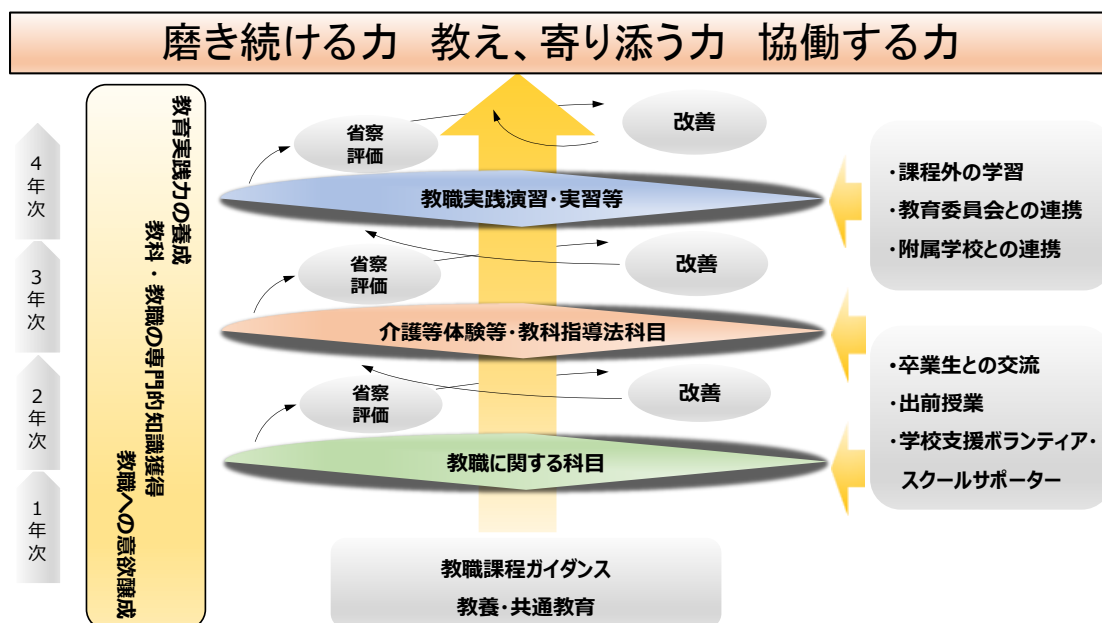


図1 兵庫県立大学全学教職課程の学修目標達成のためのフロー

本学では、教員養成目標・計画を全学的に達成し、全学の教職課程の管理運営に関する組織的な指導体制を確立するため、ICT環境の整備、兵庫県教育委員会の人選による専任教員の配置を進め、令和5年4月に教職教育センターを開設した。今後の重点的取組事項は、①教育現場への応答力の向上②教職課程の特色化・高度化の2点である。

現在、本学において教職課程を設置している学部は、工学部・理学部・環境人間学部・看護学部、研究科は、社会科学研究科・工学研究科・理学研究科・看護学研究科で、数学、理科、工業、保健体育、栄養、養護の教員免許状が取得可能で、理工系・健康関連に特化している特徴がある。さらに、令和8年4月改組予定の工学部では情報人材育成の社会的要請に応えるために、情報の教員免許状を取得可能とする。

また、本学には、公立大学としては希少な附属中学校・高等学校という有力な資源がある。附属の中等学校や高等学校を有する大学は、国立大学の中でも高等師範学校を前身校とする大学や中核的な教員養成大学等に限定されており、数は多くない。

以上の強みを最大限活かして、①教育現場への応答力の向上②教職課程の特色化・高度化に取り組んでいく。そのために、新規採用した公立学校校長経験者を核として教育委員会との連携をさらに深めるとともに、附属中学校・高等学校と連携した実践的なプログラムの開発を進めていく。また、これまでも、各講義において、グループワークをできるだけ多く取り入れて、コミュニケーション能力の育成を図り、実際に学校現場に出向いて、児童生徒と向き合う機会を設定してきたが、令和5年度の入学生より、大学が設定する独自科目として実践的指導力の基礎を強固にするための体験的実習科目を新設している。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

工学部工学科では、気候変動や感染症、エネルギー、災害など、一国では対応できない地球規模の社会課題解決に貢献できる人材を育成するという理念を掲げている。これらの教育理念に基づき、以下の教員養成目標を掲げる。

- ・ 確かな基礎学力と専門知識の上に、今後の我が国を支える生徒たちに工学の魅力や最先端技術を分かりやすく伝える授業の構築能力とコミュニケーション能力を有している
- ・ 生徒が興味深く学ぶ環境づくりや、一人一人の個性を活かし、その能力を十分伸ばす教育ができる実践的能力を有している
- ・ 科学技術を健全な社会の発展に活かす高い技術者倫理を有している

上記の教員を図2の教職課程カリキュラムマップに示す計画に基づき養成する。まず、全学共通科目と数学、物理、化学などの基礎科目やデータサイエンス関連科目を中心に学修し、基礎学力を身につけるとともに、教職への意欲を醸成する。そして、演習・実習・実験を効果的に取り入れ、自然科学をベースとした専門基礎知識を修得する。また、専門分野の発展的知識や応用を学修するとともに、それらに基づいた教育法についても学ぶ。さらに、異分野融合型の科目により、グローバルな課題解決の重要性を認識し、また社会の変革をリードできる工学系技術者・研究者としての素養を養う。そして、卒業研究を通じて、自主的に物事を考え解決する能力、実践的に使える能力を養うとともに、教育実習により教員になるための実践力を修得する。

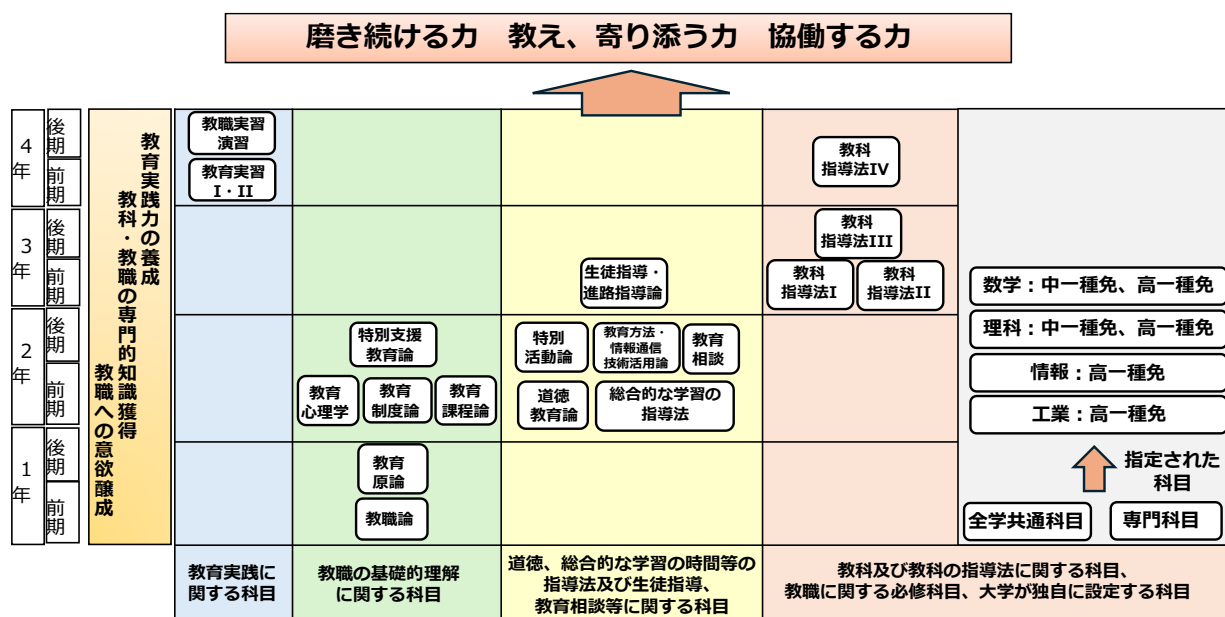


図2 教職課程カリキュラムマップ

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

① 中学校教諭一種免許状（数学）

数学は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学の根幹をなしており、特に近年の情報技術の理解と活用のための基礎知識としても重要性が高まっている。数学を道具・手法として学修するだけでなく、工学的応用にどのように数学が活用されるかなどの具体的な例をもとに数学の面白さを教授する中学校教員（数学）を養成する必要がある。

数学の基礎となる代数学、幾何学、解析学、確率・統計、コンピュータに関する基礎科目を必修科目とし、さらに電気電子工学、知能情報、機械工学、材料デザインコースで開設する授業を選択科目として学修することで、物理現象の理解のための数学の活用や数理データサイエンス等の知識や技能を修得した中学校教員（数学）を養成することを目的として、教職課程を設置する。これまでの実績として、兵庫県立大学工学部では平成16年度から令和5年度までの19年間に119名の免許取得者を輩出し、7名が教員として就職している。

② 高等学校教諭一種免許状（数学）

数学は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学の根幹をなしており、特に近年の情報技術の理解と活用のための基礎知識としても重要性が高まっている。数学を道具・手法として学修するだけでなく、工学的応用にどのように数学が活用されるかなどの具体的な例をもとに数学の面白さを教授する高等学校教員（数学）を養成する必要がある。

数学の基礎となる代数学、幾何学、解析学、確率・統計、コンピュータに関する基礎科目を必修科目とし、さらに電気電子工学、知能情報、機械工学、材料デザインコースで開設する授業を選択科目として学修することで、物理現象の理解のための数学の活用や数理データサイエンス等の知識や技能を修得した高等学校教員（数学）を養成することを目的として、教職課程を設置する。これまでの実績として、兵庫県立大学工学部では平成16年度から令和5年度までの19年間に144名の免許取得者を輩出し、5名が教員として就職している。

③ 中学校教諭一種免許状（理科）

科学技術の発展により我々の生活は豊かになる一方、基本的な物理・化学現象などを意識する機会に乏しく、理科教育を通じて科学的探究心を養うことの重要性が高まっている。そのため、理科の楽しさ、面白さについて実験などを通じて教授できる中学校教員（理科）を養成する必要がある。

理科の基礎となる物理、化学、生物、地学に関する基礎科目ならびに実験科目を必修科目とし、さらに化学コースが開設する発展的な化学実験等を選択科目として学修することで、理科教員として十分な素養を有する中学校教員（理科）を養成することを目的として、教職課程を設置する。これまでの実績として、兵庫県立大学工学部では平成16年度から令和5年度までの19年間に104名の免許取得者を輩出し、2名が教員として就職している。

④ 高等学校教諭一種免許状（理科）

科学技術の発展により我々の生活は豊かになる一方、基本的な物理・化学現象などを意識する機会に乏しく、理科教育を通じて科学的探究心を養うことの重要性が高まっている。そのため、理科の楽しさ、面白さについて実験などを通じて教授できる高等学校教員（理科）を養成する必要がある。

理科の基礎となる物理、化学、生物、地学に関する基礎科目ならびに実験科目を必修科目とし、さらに化学コースが開設する発展的な化学実験等を選択科目として学修することで、理科教員として十分な素養を有する高等学校教員（理科）を養成することを目的として、教職課程を設置する。これまでの実績として、兵庫県立大学工学部では平成16年度から令和5年度までの19年間に165名の免許取得者を輩出し、3名が教員として就職している。

⑤ 高等学校教諭一種免許状（工業）

複雑化・多様化・グローバル化した現代社会では、工学系人材には一つの専門分野にとらわれず、幅広い知識・視点から新しい技術を生み出す力が要求される。そのため、分野横断的な工学の知識と技術を教授できる高等学校教員（工業）を養成する必要がある。

電気電子工学、機械工学、材料デザイン、化学分野の概論を必修科目として学修すること

で、工学に関する幅広い知識を修得し、さらに各コースが開設する専門科目を選択科目として学修することで、工業科教員として十分な基礎知識と高い専門性を有する高等学校教員（工業）を養成することを目的として、教職課程を設置する。これまでの実績として、兵庫県立大学工学部では平成16年度から令和5年度までの19年間に37名の免許取得者を輩出し、1名が教員として就職している。

⑥ 高等学校教諭一種免許状（情報）

2022年以降の高等学校における情報Iの必修化や、国公立大学を中心とした大学入学共通テスト「情報」受験必須化により、情報教育の重要性が高まる一方、情報の教員免許を有する高等学校教員が少ないのが現状である（令和4年度の情報一種免許取得者は1036名）。また、国の第4期教育振興基本計画で示されたコンセプトを踏まえ、兵庫県では「第4期ひょうご教育創造プラン」において情報活用能力の育成や地域ニーズに応える専門人材の強化が掲げられている。そのため、データサイエンスやAIなどの先端情報技術・知識を有する高等学校教員（情報）を養成する必要がある。しかし、兵庫県には情報の教員免許状を取得できる大学が6校しかなく（令和6年4月1日現在）、そのすべてが私立大学であるため、高等学校教員（情報）を目指す高校生に対して十分な機会を提供できていない状況にある。そこで、兵庫県立大学工学部では令和8年度の改組で知能情報コースを設置する。従来は電気電子情報工学科 電子情報工学コースにおいて電子工学と情報工学の双方を学ぶ課程であったため、自ずと情報関係の科目数や専門性が限定されていたところ、知能情報コースの設置に伴い情報工学・情報科学に関するより専門性の高い科目を豊富に設定することが可能となった。

具体的に知能情報コースでは、情報理論や論理回路、データサイエンス等の情報科学の基礎に加え、プログラミングに関する座学・演習を豊富に設定することで実践力の高い情報専門人材を育成する。さらに実験科目では情報工学と電子工学の融合領域に関する実験に加え、課題解決型（PBL：Problem-Based Learning）の実験科目を設定することで、実問題の解決に取り組む姿勢・意欲やチームワーク力の涵養を図る。加えて信号処理、画像・音声メディア処理や通信・ネットワーク、さらには人工知能に関する専門的な講義を設定し、現代のインフラを支えるICT技術の基礎を一通り理解し教育できる人材の育成を目指す。

本学工学部の情報系教育の特徴として、分析・解明など受動的な情報処理を主眼とする経済経営・社会科学系の情報学科・コースとは異なり、工学部ならではの、モノを生み出し、制御するための能動的な情報処理技術の習得に強みがある点が挙げられる。特に令和8年度の改組後は工学部工学科の1学科体制となることで、情報系の科目に加え、電子工学や機械工学にわたる柔軟で横断的な学びも可能なカリキュラムとする。これにより、中学・高等学校で取り組みが進められているSTEAM教育に対応できる教員の育成が可能である。

以上のような背景から、高等学校教諭一種免許状（情報）の教職課程を新たに設置する。

令和7年度兵庫県公立学校教員採用候補者選考試験の1次試験において、中学校・特別支援学校の受験者数は992名、高校の受験者は1056名であった、試験の倍率はそれぞれ、1.9倍、2.3倍で、高校に関しては2.5倍からの減少となっている。本学は兵庫県のみ資する教員の育成を目的してはいないが、地域の教育ニーズに対応する責務を負っている。教育不足を解消するために新規教員を増やすだけでなく、現役の教員と大学との連携も重要になるとため、新規の情報免許に加え、既存の数学、理科、工業を維持していくことが地域の教育課題の解決に繋がると考える。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

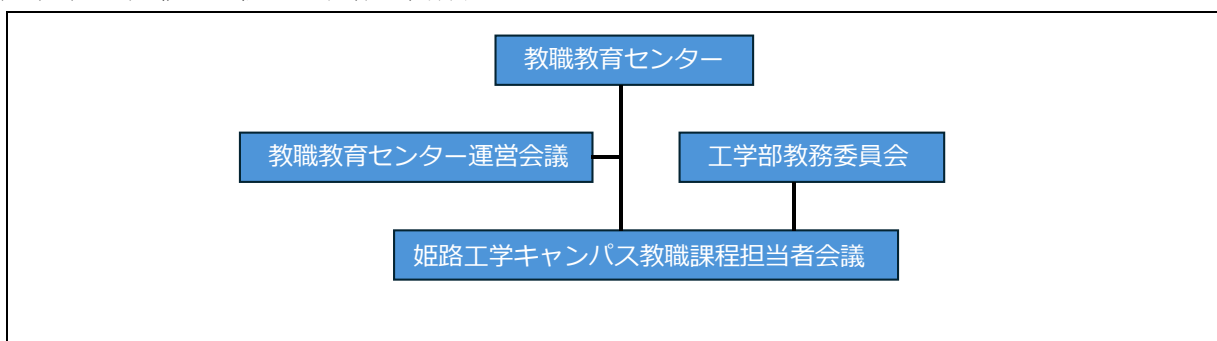
組織名称：	兵庫県立大学 教職教育センター
目的：	全学の教職課程の管理運営に関する組織的な指導体制を確立し、教職課程の質向上及び県教委等と連携強化を図ることを目的とする。
審議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職課程に係る企画・立案・運営及び全学的な調整に関すること 2. 教職課程に係るカリキュラムの研究・開発・編成に関すること 3. 教育課程の内部質保証に係る自己点検・評価に関すること 4. 教育課程に係る FD・SD の実施に関すること 5. 教育実習・介護等体験活動の企画・運営に関すること 6. 教職相談・就職支援に関すること 7. 教職課程に係る学外機関との調整・連携に関すること 8. その他センターの業務を実施するために必要なこと
責任者：	センター長 尾崎 公子 教授
構成員(役職・人数)：	センター長1名、副センター長2名、専任特任教授1名、事務局長1名、その他センター長が必要と認めた者
運営方法：	センター運営に係る重要事項の審議、情報共有の審議機関として、教職センター会議を設置。その下位機関として、教職センター運営会議を設置。
	<p>【教職センター会議】</p> <p>○構成員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. センター長 2. 副センター長 3. 専任特任教授 4. 教職課程を設置する学部及び研究科から選出された教員 5. 事務局長（事務局教育企画部長） 6. その他センター長が必要と認めた者 <p>○開催頻度 年に2～3回程度</p> <p>【教職センター運営会議】</p> <p>○構成員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. センター長 2. 副センター長 3. 専任特任教授教員 4. 事務局長（事務局教育企画部長） 5. その他センター長が必要と認めた者 <p>○開催頻度 毎月</p>

様式第7号イ

組織名称：	兵庫県立大学工学部 教務委員会
目的：	工学研究科、工学部の教務に関する事項全般を審議する。
責任者：	工学研究科長が指名した者
構成員(役職・人数)：	工学研究科長が選任した委員長(教授)1名、教授6名、准教授6名ずつ選出された委員12名
運営方法：	月に1回定例の委員会を開催し、工学部の教務に関する事項全般を審議する。

組織名称：	兵庫県立大学姫路工学キャンパス教職課程担当者会議
目的：	姫路工学キャンパスにおける教職課程の運営に関する事項を審議することを目的とする。
審議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の養成及び当該目標を達成するための計画及び自己点検評価に関すること 2. 教育課程の編成及び実施に関すること 3. 教職課程履修学生の受け入れ及び指導に関すること 4. 教職課程に関するキャリア支援に関すること 5. 学修成果の把握及び評価に関すること 6. 教職課程に関わる学内外の機関等との協議、調整、連絡に関すること 7. その他教職課程運営において必要な事項に関すること
責任者：	学部長が指名した者
構成員(役職・人数)：	教育の基礎的理解に関する科目等を担当する教員1名、教職に関する工学部開講科目および工学研究科開講科目を担当する教員6名
運営方法：	担当者会議は、責任者が必要と認めるときに開催し、審議又は議決を経た事項のうち、教務委員会及び学生生活委員会の議決を要する事項については、関係する各委員会に提議、報告する。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



様式第7号イ

Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

- ・令和5年度より、教職センターに、兵庫県教育委員会の人選による専任教員を任用し、教育委員会との連携をより一層図っている。
- ・兵庫県教員等の資質向上に関する協議会、神戸市教員育成協議会の構成員として、教員養成と育成に係る協議に参画している。
- ・兵庫県立大学附属中学校・高等学校の教職員との授業研究を通じて学校現場の意見聴取を図っている。
- ・教職センター主催のFD・SD研修において、学校現場に赴き、教職員と意見交流を図っている。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	教育実践体験
連携先との調整方法：	姫路市教育委員会・神戸市教育委員会・尼崎市教育委員会・たつの市教育委員会の委員会事務局の学校指導課などの担当者と年3回程度、会合を持ち方向性を決定している。
具体的な内容：	令和4年までに、教員が取組んできた情報モラル教育の学校への出前授業の実績を踏まえ、大学が設定する独自科目として令和5年度の入学生より教職科目に組み込んでいる。

Ⅲ. 教職指導の状況

○学内の教職指導体制

「兵庫県立大学姫路工学キャンパス教職課程担当者会議設置要綱」を定め、教育の基礎的理解に関する科目等を担当する教員、教職に関する工学部開講科目を担当する教員、教職に関する工学研究科開講科目を担当する教員を構成員として、教職指導体制を整備している。

○教職指導の内容

- ・高校生向け進学説明会で教員免許を取得できることを説明しており、入学時のオリエンテーションにおいても教職課程の概略を説明している。
- ・学生に対する履修指導については、年1回、翌年度教育実習希望の3年次学生を対象に窓口にて履修指導をしている。また3年次前期成績発表時点で翌年度教育実習希望者の履修状況を確認し指導している。
- ・学生に対する進路指導については、進路指導教員が就職活動ガイダンスで説明すると共に個別にも対応している。また、キャリアセンターにおいても一部の対応をしている。

様式第7号ウ

<工学部工学科>(認定課程:中一種免(数学))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職のガイダンスに出席し、履修カルテに基づき履修計画を立てる。 ・教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容など教職の在り方について理解する。 ・66条6の科目に関連した科目(日本国憲法、スポーツ、語学、データサイエンス入門)を履修し、教職に関する基礎的素養について理解する。 ・代数学Iと解析学Iを履修し、大学における数学の基礎を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き66条6の科目に関連した科目(スポーツ、語学等)を履修し、教職に関する基礎的素養についてより深く理解する。 ・代数学IIと解析学IIを履修し、代数学と解析学の発展的な内容について理解する。 ・基礎的な情報処理理論およびプログラミングについて理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の発達過程および特徴を理解し、学ぶ側の視点から課題解決を導く方法を理解する。 ・テーマ学習や横断的な学習について学び、実践的な指導計画を作成できる。 ・1年次に修得した代数学と解析学を基礎に、複素解析学や幾何学などの専門知識を理解する。 ・数学的活動を通して、主体的・対話的で深い学びを体験し、その指導法を身に付ける。また、工夫したICTの活用を考える。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での活動を通して、課題の発見や解決ができる指導のあり方を理解する。 ・特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの支援について理解する。 ・前期で学んだ数学的知識をより専門的な数理科学へ適用し、問題解決できる能力を獲得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の基本的概念を理解するとともに、教育の理念を歴史や思想の中から理解する。 ・生徒の個性を尊重し、社会的資質や行動力を高めることを目指した教育活動ができる。 ・数学の問題の理解を深め、問題のテーマを分類する。異分野の解法を関係づけ、よい授業を模倣する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な見方・考え方や数学的活動等に関する考察を通して、数学の指導法についての理解を深め、実演する。また、大学数学を踏まえたうえで、高い立場から初等数学を見直し、自らの言葉で表現する。さらに、生徒理解や授業の進め方、評価方法や学習指導案の書き方、ICTの活用方法などについて学び、授業者としての資質・能力を高め、応用する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習を通じて、実践的な指導力(指導案の作成、授業の実施、学級運営)を体験し、実践的な指導力を身につける。 ・知的な創造の成果を尊重、保護する仕組みを体系的に理解し、その重要性を教育できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究を通して、研究計画から論文作成、発表までの一連の過程を経験することで、問題解決能力や研究能力を獲得する。 ・これまで学んだ教職に関する科目や情報科目の知識を統合し、実践的な教育を展開していくための能力を身につける。

様式第7号ウ

<工学部工学科>(認定課程:中一種免(理科))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職のガイダンスに出席し、履修カルテに基づき履修計画を立てる。 ・教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容など教職の在り方について理解する。 ・66条6の科目に関連した科目(日本国憲法、スポーツ、語学、データサイエンス入門)を履修し、教職に関する基礎的素養について理解する。 ・「力学基礎」と「基礎化学」を履修し、理科に関する基礎事項の修得を開始する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き66条6の科目に関連した科目(スポーツ、語学等)を履修し、教職に関する基礎的素養についてより深く理解する。 ・物理と化学の基礎知識を理解するとともに、物理実験と化学実験により実験の基礎操作やデータの解析について理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の発達過程および特徴を理解し、学ぶ側の視点から課題解決を導く方法を理解する。 ・テーマ学習や横断的な学習について学び、実践的な指導計画を作成できる。 ・物理、無機化学、有機化学、生物化学の専門に関する基礎知識を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での活動を通して、課題の発見や解決ができる指導のあり方を理解する。 ・特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの支援について理解する。 ・前期で学んだ物理、無機化学、有機化学、生物化学の基礎知識を発展させた内容について理解する。 ・実験に必要なスキルを身につけ、レポート作成ができる。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校の学習指導要領に基づいて、理科の教育目標や内容を十分に理解し、理科教員の資質を身につける。また、学習指導案・板書計画の作成や模擬授業等を通して対象生徒の実態に即した授業を行える実践力を身につける。 ・これまでに習得した実験の基本操作を基にして、より複雑な実験とその解析方法を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・理科指導法I,IIの履修を基に、教育DX や授業デザインの視点を加えた授業展開ができる。 ・教育現場に即した探求学習、発展的な内容をデザインできる。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習を通じて、実践的な指導力(指導案の作成、授業の実施、学級運営)を体験し、実践的な指導力を身につける。 ・知的な創造の成果を尊重、保護する仕組みを体系的に理解し、その重要性を教育できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究を通して、研究計画から論文作成、発表までの一連の過程を経験することで、問題解決能力や研究能力を獲得する。 ・これまで学んだ教職に関する科目や情報科目の知識を統合し、実践的な教育を展開していくための能力を身につける。

様式第7号ウ

<工学部工学科>(認定課程:高一種免(数学))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職のガイダンスに出席し、履修カルテに基づき履修計画を立てる。 ・教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容など教職の在り方について理解する。 ・66条6の科目に関連した科目(日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、データサイエンス入門)を履修し、教職に関する基礎的素養について理解する。 ・代数学Iと解析学Iを履修し、大学における数学の基礎を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き66条6の科目に関連した科目(スポーツ、語学等)を履修し、教職に関する基礎的素養についてより深く理解する。 ・代数学IIと解析学IIを履修し、代数学と解析学の発展的な内容について理解する。 ・基礎的な情報処理理論およびプログラミングについて理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の発達過程および特徴を理解し、学ぶ側の視点から課題解決を導く方法を理解する。 ・テーマ学習や横断的な学習について学び、実践的な指導計画を作成できる。 ・1年次に修得した代数学と解析学を基礎に、複素解析学や幾何学などの専門知識を理解する。 ・数学的活動を通して、主体的・対話的で深い学びを体験し、その指導法を身に付ける。また、工夫したICTの活用を考える。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での活動を通して、課題の発見や解決ができる指導のあり方を理解する。 ・特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの支援について理解する。 ・前期で学んだ数学的知識をより専門的な数理科学へ適用し、問題解決できる能力を獲得する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の基本的概念を理解するとともに、教育の理念を歴史や思想の中から理解する。 ・生徒の個性を尊重し、社会的資質や行動力を高めることを目指した教育活動ができる。 ・数学の問題の理解を深め、問題のテーマを分類する。異分野の解法を関係づけ、よい授業を模倣する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な見方・考え方や数学的活動等に関する考察を通して、数学の指導法についての理解を深め、実演する。また、大学数学を踏まえたうえで、高い立場から初等数学を見直し、自らの言葉で表現する。さらに、生徒理解や授業の進め方、評価方法や学習指導案の書き方、ICTの活用方法などについて学び、授業者としての資質・能力を高め、応用する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習を通じて、実践的な指導力(指導案の作成、授業の実施、学級運営)を体験し、実践的な指導力を身につける。 ・知的な創造の成果を尊重、保護する仕組みを体系的に理解し、その重要性を教育できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究を通して、研究計画から論文作成、発表までの一連の過程を経験することで、問題解決能力や研究能力を獲得する。 ・これまで学んだ教職に関する科目や情報科目の知識を統合し、実践的な教育を展開していくための能力を身につける。

様式第7号ウ

<工学部工学科>(認定課程:高一種免(理科))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職のガイダンスに出席し、履修カルテに基づき履修計画を立てる。 ・教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容など教職の在り方について理解する。 ・66条6の科目に関連した科目(日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、データサイエンス入門)を履修し、教職に関する基礎的素養について理解する。 ・「力学基礎」と「基礎化学」を履修し、理科に関する基礎事項の修得を開始する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き66条6の科目に関連した科目(スポーツ、語学等)を履修し、教職に関する基礎的素養についてより深く理解する。 ・物理と化学の基礎知識を理解するとともに、物理実験と化学実験により実験の基礎操作やデータの解析について理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の発達過程および特徴を理解し、学ぶ側の視点から課題解決を導く方法を理解する。 ・テーマ学習や横断的な学習について学び、実践的な指導計画を作成できる。 ・物理、無機化学、有機化学、生物化学の専門に関する基礎知識を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での活動を通して、課題の発見や解決ができる指導のあり方を理解する。 ・特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの支援について理解する。 ・前期で学んだ物理、無機化学、有機化学、生物化学の基礎知識を発展させた内容について理解する。 ・実験に必要なスキルを身につけ、レポート作成ができる。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校の学習指導要領に基づいて、理科の教育目標や内容を十分に理解し、理科教員の資質を身につける。また、学習指導案・板書計画の作成や模擬授業等を通して対象生徒の実態に即した授業を行える実践力を身につける。 ・これまでに習得した実験の基本操作を基にして、より複雑な実験とその解析方法を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・理科指導法Ⅱの履修を基に、教育DX や授業デザインの視点を加えた授業展開ができる。 ・教育現場に即した探求学習、発展的な内容をデザインできる。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習を通じて、実践的な指導力(指導案の作成、授業の実施、学級運営)を体験し、実践的な指導力を身につける。 ・知的な創造の成果を尊重、保護する仕組みを体系的に理解し、その重要性を教育できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究を通して、研究計画から論文作成、発表までの一連の過程を経験することで、問題解決能力や研究能力を獲得する。 ・これまで学んだ教職に関する科目や情報科目の知識を統合し、実践的な教育を展開していくための能力を身につける。

様式第7号ウ

<工学部工学科>(認定課程:高一種免(情報))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職のガイダンスに出席し、履修カルテに基づき履修計画を立てる。 ・教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容など教職の在り方について理解する。 ・66条6の科目に関連した科目(日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、データサイエンス入門)を履修し、教職に関する基礎的素養について理解する。 ・「計算機基礎」を履修し、情報に関する専門事項の修得を開始する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き66条6の科目に関連した科目(スポーツ、語学等)を履修し、教職に関する基礎的素養についてより深く理解する。 ・「プログラミング演習Ⅰ」を履修し、プログラムの設計と、基礎的なプログラミングについて理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の発達過程および特徴を理解し、学ぶ側の視点から課題解決を導く方法を理解する。 ・テーマ学習や横断的な学習について学び、実践的な指導計画を作成できる。 ・論理回路と計算機アーキテクチャについて学び、計算機ハードウェアについて理解する。 ・セキュリティリスクやプライバシー保護など、情報にまつわる倫理的・法的・社会的問題について理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での活動を通して、課題の発見や解決ができる指導のあり方を理解する。 ・特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの支援について理解する。 ・高度なプログラミング技術の習得とそれを応用できる問題解決能力を身につける。 ・人工知能の基礎について学び、その用途や社会的影響、リスクについて理解する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の基本的概念を理解するとともに、教育の理念を歴史や思想の中から理解する。 ・生徒の個性を尊重し、社会的資質や行動力を高めることを目指した教育活動ができる。 ・習得した情報科学の知識を正しく社会で活かすため、セキュリティの確保やICTが与える生活・社会への影響を理解する。 ・画像処理や通信工学などアプリケーションの開発の基礎となる知識を習得する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューラルネットワークや最適化アルゴリズムを学び、人工知能の中心をなす深層学習の基礎を理解する。 ・オペレーティングシステムとネットワークについて学び、インフラとしてのIT技術と、その構築・維持の基礎について理解する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習を通じて、実践的な指導力(指導案の作成、授業の実施、学級運営)を体験し、実践的な指導力を身につける。 ・知的な創造の成果を尊重、保護する仕組みを体系的に理解し、その重要性を教育できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究を通して、研究計画から論文作成、発表までの一連の過程を経験することで、問題解決能力や研究能力を獲得する。 ・これまで学んだ教職に関する科目や情報科目の知識を統合し、実践的な教育を展開していくための能力を身につける。

様式第7号ウ

<工学部工学科>(認定課程:高一種免(工業))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職のガイダンスに出席し、履修カルテに基づき履修計画を立てる。 ・教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容など教職の在り方について理解する。 ・66条6の科目に関連した科目(日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、データサイエンス入門)を履修し、教職に関する基礎的素養について理解する。 ・環境やエネルギーまた材料や機械に関する概論について学ぶ。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続き66条6の科目に関連した科目(スポーツ、語学等)を履修し、教職に関する基礎的素養についてより深く理解する。 ・「プログラミング演習Ⅰ」を履修し、基礎的なプログラミングについて理解する。 ・前期に引き続きより幅広い科学技術に関する概論について学ぶ。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の発達過程および特徴を理解し、学ぶ側の視点から課題解決を導く方法を理解する。 ・テーマ学習や横断的な学習について学び、実践的な指導計画を作成できる。 ・電気、情報、機械、材料、化学など工学の基礎となる理論を学び、演習および実験でその定着を図る。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での活動を通して、課題の発見や解決ができる指導のあり方を理解する。 ・特別な教育的ニーズを有する子どもたちへの支援について理解する。 ・前期で学んだ電気、情報、機械、材料、化学などの知識に基づき、より発展した内容を演習および実験を通して理解する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の基本的概念を理解するとともに、教育の理念を歴史や思想の中から理解する。 ・生徒の個性を尊重し、社会的資質や行動力を高めることを目指した教育活動ができる。 ・電気、情報、機械、材料、化学の専門的な内容を選び、高度な工学に関する知識を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・「工業」に関する授業の構成要素と構造が説明できるとともに、教育課程、年間指導計画、学習指導案について理解を深める。また、高等学校学習指導要領の趣旨を理解し、工業科の目標、内容、指導法・授業形態や授業方法(情報通信技術の活用を含む)などを理解する。 ・これまで培った工学の知識を活用して、最先端の内容を含む高度な専門知識を理解する。 ・実験、実習、PBL(Project Based Learning)を通じて、能動的に工学的な問題を解決する。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習を通じて、実践的な指導力(指導案の作成、授業の実施、学級運営)を体験し、実践的な指導力を身につける。 ・知的な創造の成果を尊重、保護する仕組みを体系的に理解し、その重要性を教育できるようになる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究を通して、研究計画から論文作成、発表までの一連の過程を経験することで、問題解決能力や研究能力を獲得する。 ・これまで学んだ教職に関する科目や情報科目の知識を統合し、実践的な教育を展開していくための能力を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

<工学部工学科>（認定課程：中一種免（数学））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		代数学Ⅰ		健康・スポーツ科学演習1	
			解析学Ⅰ		Academic English 1	
			プログラミング基礎		Practical English 1	
					English Communication 1	
					日本国憲法	
					データサイエンス入門	
	前期集中	教職論				
	後期		代数学Ⅱ		健康・スポーツ科学概論	
			解析学Ⅱ		健康・スポーツ科学演習2	
			プログラミング論		Academic English 2	
			離散数学		Practical English 2	
				English Communication 2		
後期集中	教育原論					
2年次	前期		応用解析学Ⅰ			
			複素解析学			
			幾何学			
			数理データサイエンス			
			熱・統計力学			
			計算材料学			
			制御工学Ⅰ			
	前期集中		教育制度論		教育実践体験	
			教育心理学			
			教育課程論			
			道徳教育論			
		教育相談				

		総合的な学習の指導法				
	後期		応用解析学Ⅱ			
			確率・統計			
			電磁気学Ⅱ			
			情報理論			
	後期 集中	特別活動論				
		特別支援教育論				
		教育方法・情報通信技術活用論				
3年次	前期	数学科指導法Ⅰ				
		数学科指導法Ⅲ				
	前期 集中	生徒指導・進路指導論		介護等体験		
	後期	数学科指導法Ⅱ				
4年次	前期					
	前期 集中	数学科指導法Ⅳ				
		教育実習Ⅱ				
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ（教諭）

<工学部工学科>（認定課程：中一種免（理科））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		力学基礎		健康・スポーツ科学演習1	
			基礎化学		Academic English 1	
			生命科学概論		Practical English 1	
			地球科学概論		English Communication 1	
					日本国憲法	
					データサイエンス入門	
	前期集中	教職論				
	後期		振動・波動論		健康・スポーツ科学概論	
			電磁気学基礎		健康・スポーツ科学演習2	
			物理化学I		Academic English 2	
			物理化学Ⅱ		Practical English 2	
			基礎生化学		English Communication 2	
			物理学実験			
			化学実験			
後期集中	教育原論					
2年次	前期		有機化学I			
			生物化学Ⅰ			
			電磁気学Ⅰ			
			量子力学			
			物理化学Ⅲ			
			無機化学I			
			学生実験I			
	前期	教育制度論		教育実践体験		
		教育心理学				
		教育課程論				

	集中	道德教育論				
		教育相談				
		総合的な学習の指導法				
	後期		無機化学Ⅱ			
			有機化学Ⅱ			
			生命科学			
			学生実験Ⅱ			
	後期集中	特別活動論				
		特別支援教育論				
		教育方法・情報通信技術活用論				
3年次	前期	理科指導法Ⅰ	有機化学Ⅲ			
		理科指導法Ⅱ	生物学			
			学生実験Ⅲ			
	前期集中	生徒指導・進路指導論		介護等体験		
	後期	理科指導法Ⅲ				
4年次	前期	理科指導法Ⅳ	生物学実験			
			地学実験			
	前期集中	教育実習Ⅱ				
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ（教諭）

<工学部工学科>（認定課程：高一種免（数学））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		代数学Ⅰ		健康・スポーツ科学演習1	
			解析学Ⅰ		Academic English 1	
			プログラミング基礎		Practical English 1	
					English Communication 1	
					日本国憲法	
					データサイエンス入門	
	前期集中	教職論				
	後期		代数学Ⅱ		健康・スポーツ科学概論	
			解析学Ⅱ		健康・スポーツ科学演習2	
			プログラミング論		Academic English 2	
			離散数学		Practical English 2	
				English Communication 2		
後期集中	教育原論					
2年次	前期		応用解析学Ⅰ			
			複素解析学			
			幾何学			
			数理データサイエンス			
			熱・統計力学			
			計算材料学			
			制御工学Ⅰ			
	前期集中	教育制度論		教育実践体験		
		教育心理学				
		教育課程論				
		教育相談		道徳教育論		
総合的な学習の指導法						

	後期		応用解析学Ⅱ			
			確率・統計			
			電磁気学Ⅱ			
			情報理論			
	後期集中	特別活動論				
		特別支援教育論				
		教育方法・情報通信技術活用論				
3年次	前期	数学科指導法Ⅰ				
		数学科指導法Ⅲ				
	前期集中	生徒指導・進路指導論				
	後期	数学科指導法Ⅱ				
4年次	前期					
	前期集中	数学科指導法Ⅳ				
		教育実習Ⅰ				
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ（教諭）

<工学部工学科>（認定課程：高一種免（理科））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		力学基礎		健康・スポーツ科学演習1	
			基礎化学		Academic English 1	
			生命科学概論		Practical English 1	
			地球科学概論		English Communication 1	
					日本国憲法	
					データサイエンス入門	
	前期集中	教職論				
	後期		振動・波動論		健康・スポーツ科学概論	
			電磁気学基礎		健康・スポーツ科学演習2	
			物理化学I		Academic English 2	
			物理化学Ⅱ		Practical English 2	
			基礎生化学		English Communication 2	
			物理学実験			
		化学実験				
後期集中	教育原論					
2年次	前期		有機化学I			
			生物化学Ⅰ			
			電磁気学Ⅰ			
			量子力学			
			物理化学Ⅲ			
			無機化学I			
			学生実験I			
	前期集中	教育制度論		教育実践体験		
		教育心理学				
		教育課程論				

		教育相談		道徳教育論		
		総合的な学習の指導法				
	後期		無機化学Ⅱ			
			有機化学Ⅱ			
			生命科学			
			学生実験Ⅱ			
	後期集中	特別活動論				
		特別支援教育論				
		教育方法・情報通信技術活用論				
3年次	前期	理科指導法Ⅰ	有機化学Ⅲ			
		理科指導法Ⅱ	生物学			
			学生実験Ⅲ			
	前期集中	生徒指導・進路指導論				
	後期	理科指導法Ⅲ				
4年次	前期	理科指導法Ⅳ	生物学実験			
			地学実験			
	前期集中	教育実習Ⅰ				
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ（教諭）

<工学部工学科>（認定課程：高一種免（情報））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期		計算機基礎		健康・スポーツ科学演習1		
					Academic English 1		
					Practical English 1		
					English Communication 1		
					日本国憲法		
					データサイエンス入門		
	前期集中	教職論					
	後期			プログラミング演習 I		健康・スポーツ科学概論	
				人工知能 I		健康・スポーツ科学演習2	
				OS・ネットワーク		Academic English 2	
				ヒューマンインタフェース		Practical English 2	
					English Communication 2		
後期集中	教育原論						
2年次	前期		データ構造とアルゴリズム				
			プログラミング演習 II				
			論理回路 I				
			計算機アーキテクチャ				
	前期集中	教育制度論			教育実践体験		
		教育心理学			道徳教育論		
		教育課程論					
		教育相談					
		総合的な学習の指導法					
	後期			応用プログラミング			
				応用プログラミング演習			
			論理回路 II				

	後期 集中	特別活動論				
		特別支援教育論				
		教育方法・情報通信技術活用論				
3年次	前期	情報科指導法I	情報セキュリティ			
			情報と職業			
			情報通信工学			
			画像メディア工学			
	前期 集中	生徒指導・進路指導論				
	後期	情報科指導法Ⅱ	人工知能Ⅱ			
		デジタル信号処理				
4年次	前期		知的財産権			
	前期 集中	教育実習I				
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ（教諭）

<工学部工学科>（認定課程：高一種免（工業））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期		グローバルケミストリー		健康・スポーツ科学演習1	
			自動車工学		Academic English 1	
			ロボット工学		Practical English 1	
			化学測定基礎		English Communication 1	
					日本国憲法	
					データサイエンス入門	
	前期集中	教職論				
	後期		電気電子工学概論		健康・スポーツ科学概論	
			機械工学概論		健康・スポーツ科学演習2	
			マテリアルデザイン概論		Academic English 2	
			マテリアル・エネルギー化学		Practical English 2	
			システム最適化		English Communication 2	
			生命・環境化学			
			電気エネルギー発生工学			
			電気化学			
			機械力学I			
			電気電子工学実験I			
	後期集中	教育原論				
	前期		電気電子工学実験II			
		電気回路I				
		電気回路演習				
		電磁気学演習				
		基礎電気電子計測				
		材料力学I				
		熱力学I				

2年次		流体力学Ⅰ				
		機械力学Ⅱ				
		基礎材料工学Ⅰ				
		基礎材料工学Ⅱ				
		物性物理Ⅰ				
		化学工学Ⅰ				
	前期集中	教育制度論		教育実践体験		
		教育心理学		道徳教育論		
		教育課程論				
		教育相談				
		総合的な学習の指導法				
	後期		電気電子工学実験Ⅲ			
			電気回路Ⅱ			
			電気電子材料物性論			
			電子回路			
			材料力学Ⅱ			
			制御工学Ⅱ			
			熱力学Ⅱ			
			流体力学Ⅱ			
			基礎材料工学Ⅲ			
		反応化学				
		材料組織工学				
		物性物理Ⅱ				
		化学工学Ⅱ				
	高分子化学Ⅰ					
	特別活動論					

	後期 集中	特別支援教育論				
		教育方法・情報通信技術活用論				
3年次	前期		パワーエレクトロニクス			
			半導体デバイス			
			制御システム			
			機械設計学Ⅰ			
			伝熱工学			
			結晶塑性学			
			鉄鋼材料学			
			物性物理Ⅲ			
			量子磁性材料			
			物理化学Ⅴ			
			無機化学Ⅲ			
			化学工学Ⅲ			
			高分子化学Ⅱ			
			電気電子工学実験Ⅳ			
			電気電子工学PBL			
		前期 集中	生徒指導・進路指導論			
後期		工業科指導法Ⅰ	機械材料学			
		工業科指導法Ⅱ	計測工学			
			非鉄金属材料学			
			材料強度学			
			化学PBL			
			有機・高分子材料化学			
			有機分光学			
			プロセスデザイン実習			
			無機材料化学			
			遺伝子工学			
		固体表面科学				

			物質創成工学			
			電気電子工学実験IV			
			電気電子工学PBL			
4年次	前期		知的財産権			
	前期 集中	教育実習I	職業指導			
	後期	教職実践演習				